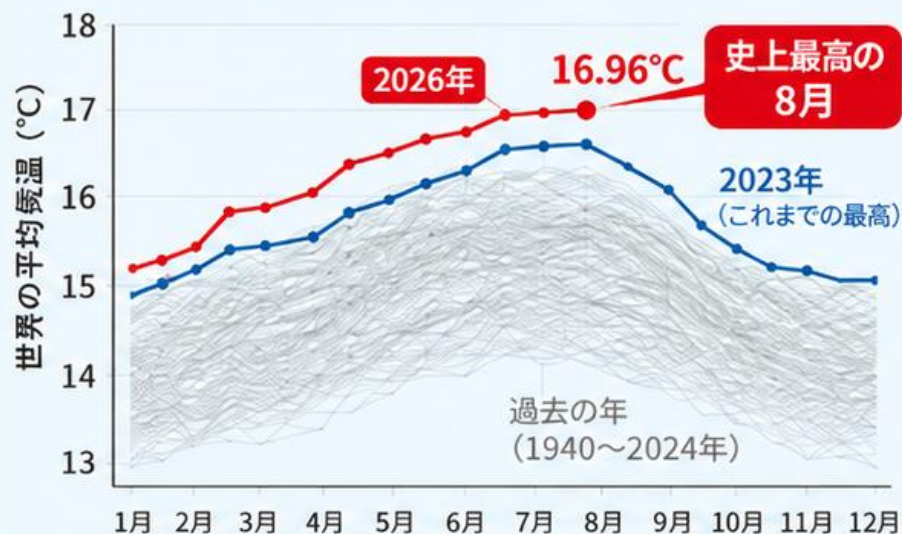


# 2026年8月の世界平均気温は 史上最高

西欧は「最も暑い夏」— EUの気象情報機関（コペルニクス気候変動サービス）が発表

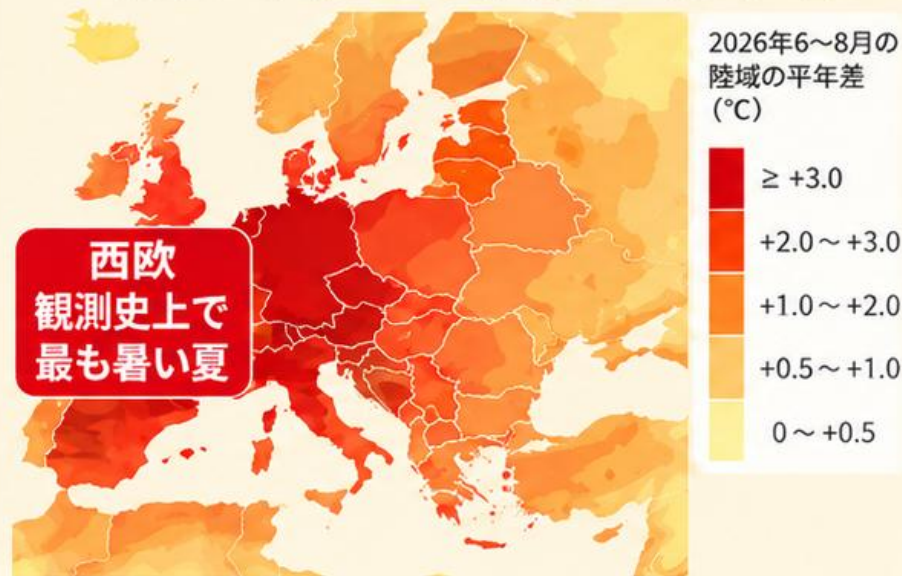
## 1 世界の平均気温（陸域+海上）

2026年8月の平均気温は **16.96°C** と、観測史上で最も高い8月となった



## 2 西欧は「最も暑い夏」

2026年6~8月の平均気温は、記録的な猛暑となり、観測史上で最も暑い夏に



## 3 その他の主な状況



### 陸域の猛暑

西欧では6~8月の平均気温が過去の記録を約3年分上回り、観測史上で最も暑い夏に。



### 深刻な干ばつ

フランスや英国内などで深刻な干ばつが発生。ライン川やドナウ川など主要河川の流量が異例の低水準に。



### 海洋の高温

南北両極周辺を除く海域の8月の平均海面水温は **21.07°C** と、同月として過去最高を更新。太平洋の赤道付近ではエルニーニョ現象の影響が強まっている。

## 世界の気温上昇の長期的な傾向



2026年8月の世界平均気温は産業革命前(1850~1900年)の平均を **1.65°C** 上回った。



## パリ協定の目標との関係

パリ協定は、気温上昇を **1.5°C** に抑える努力を追求することを国際目標として掲げている。月間の気温上昇幅が **1.5°C** を超えたのは昨年11月以来。



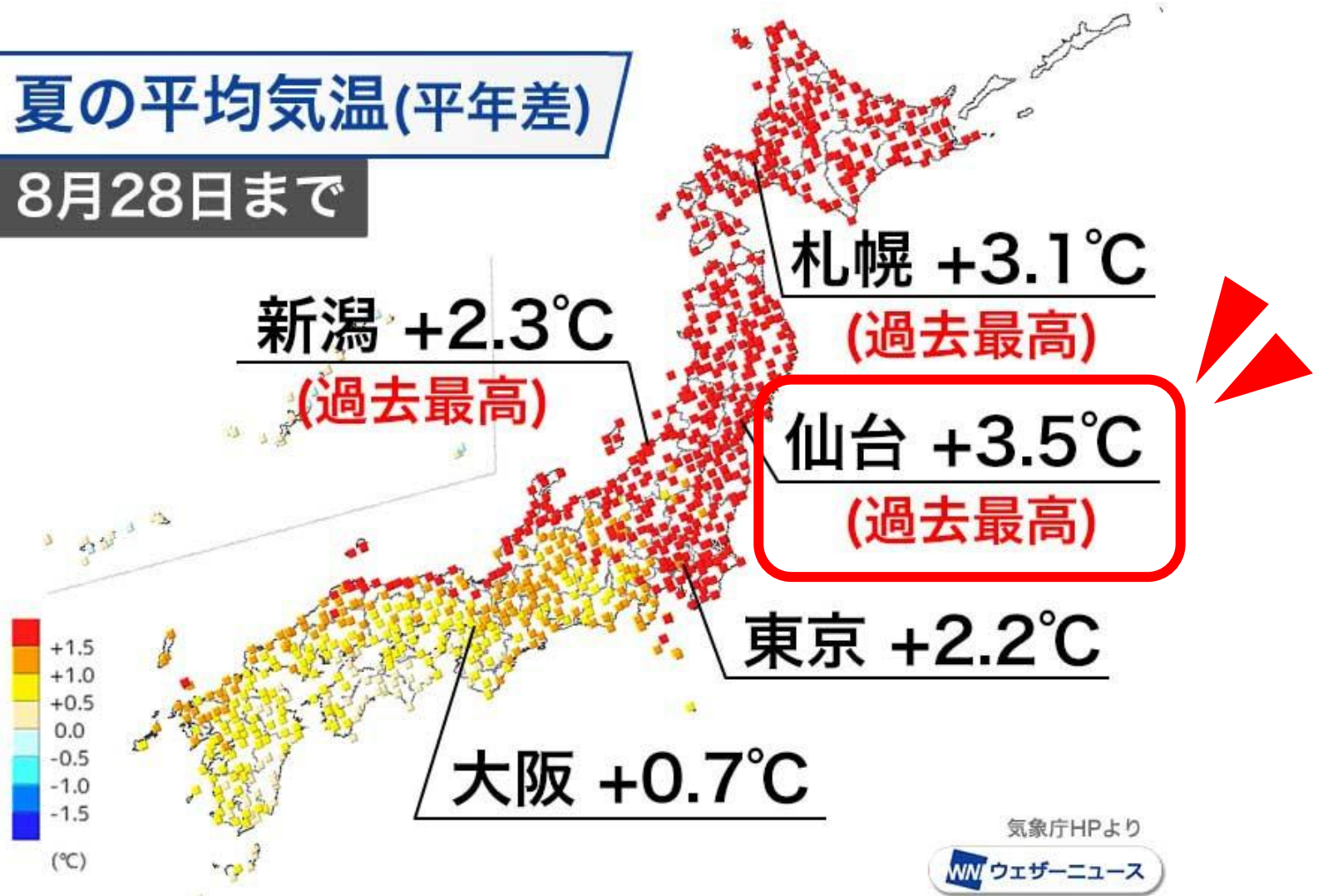
## 今後の影響

異例の高温は、熱波、干ばつ、豪雨・洪水、海洋の生態系への影響などを通じ、今後さらに深刻な影響が広がる可能性がある。

2025年

夏の平均気温(平年差)

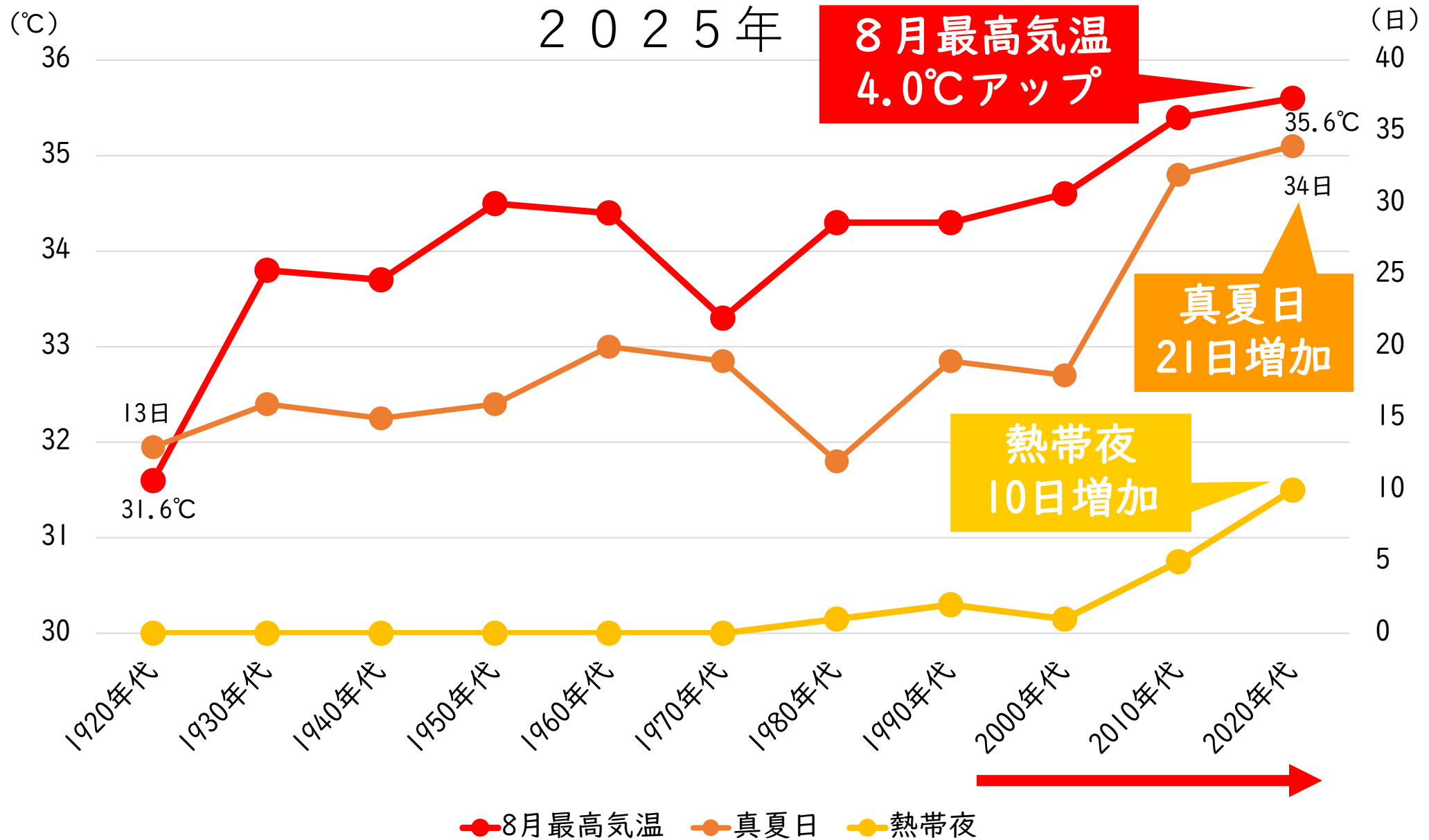
8月28日まで



平均気温

真夏日 (最高気温25°C以上)

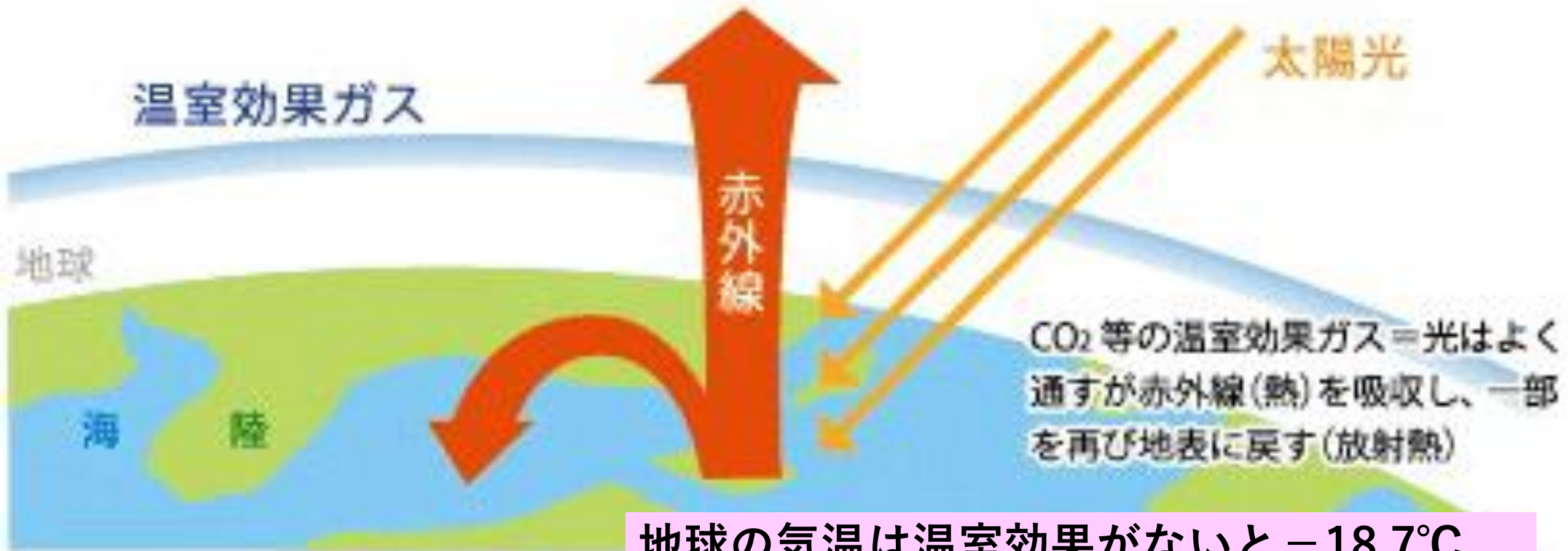
= 過去最高 (多)



⇒ 仙台の夏の暑さはどんどん厳しくなっている



# 温室効果のしくみ



地球の気温は温室効果がないと  $-18.7^{\circ}\text{C}$   
地球の気温は温室効果があるから  $+14.5^{\circ}\text{C}$

大気は、降り注ぐ太陽放射に対しては透明であるのに、地表から出る上向きの地球放射に対しては、ガラス板のような障害となって、その地球放射の大部分を大気上端に達しないうちに捉えて逃がさないのだろう

**温室効果があるから  
地球は温かい**

約200年前！



ジョゼフ・フーリエ男爵  
Joseph Fourier  
フランスの数学者・物理学者  
(1768年 - 1830年)

窒素や酸素などの主要気体成分は長波放射を吸収しないが、水蒸気、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、オゾンといった主要成分とはいえない気体成分が長波放射を吸収・射出し、温室効果を発揮する

**主要な温室効果ガスは、  
水蒸気、CO<sub>2</sub>、メタン！**



約160年前！

ジョン・ティンダル  
John Tyndall  
(1820年 - 1893年)  
アイルランド出身の  
物理学者および登山家

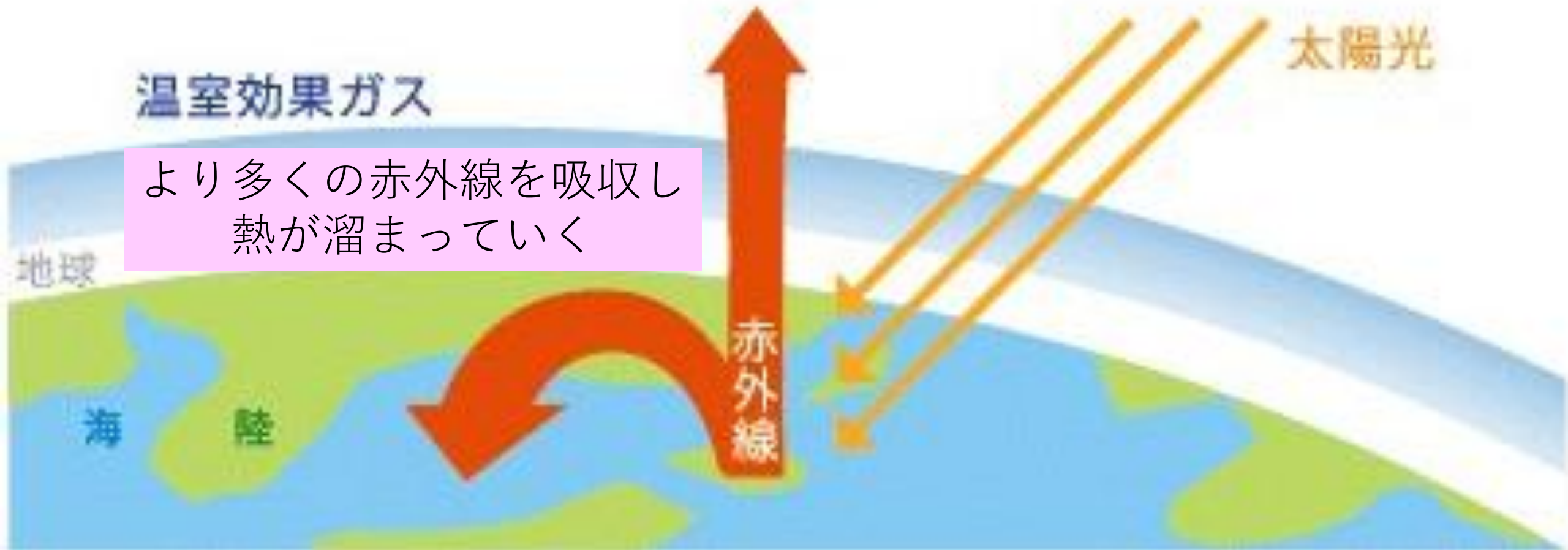
温室効果ガスが増加すると

太陽光

温室効果ガス

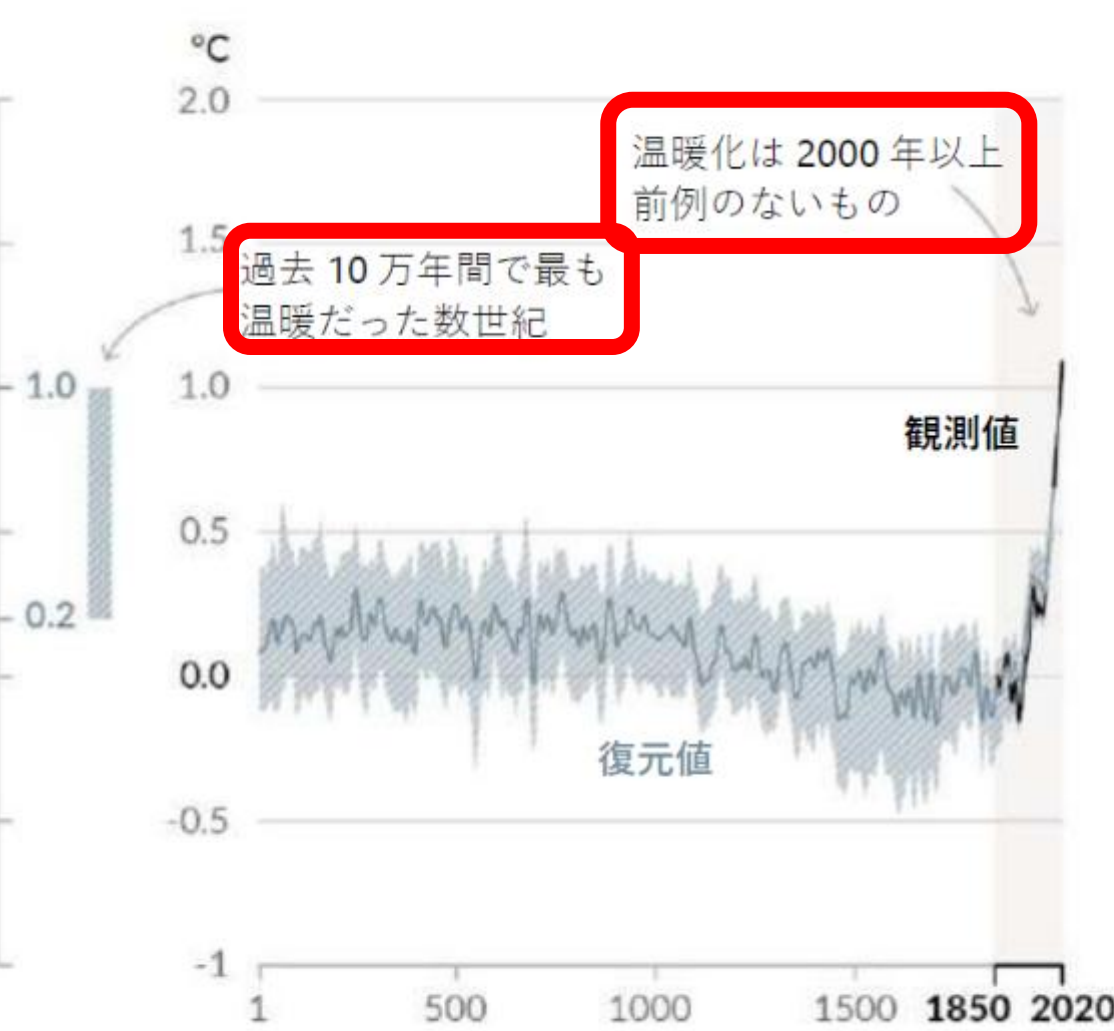
より多くの赤外線を吸収し  
熱が溜まっていく

赤外線



# 1850～1900 年を基準とした世界平均気温の変化

a) 世界平均気温（10 年平均）の変化  
復元値（1～2000 年）及び 観測値（1850～2020 年）



b) 世界平均気温（年平均）の変化  
観測値並びに人為・自然起源両方の要因を考慮した推定値 及び  
自然起源の要因のみを考慮した推定値（いずれも 1850～2020 年）

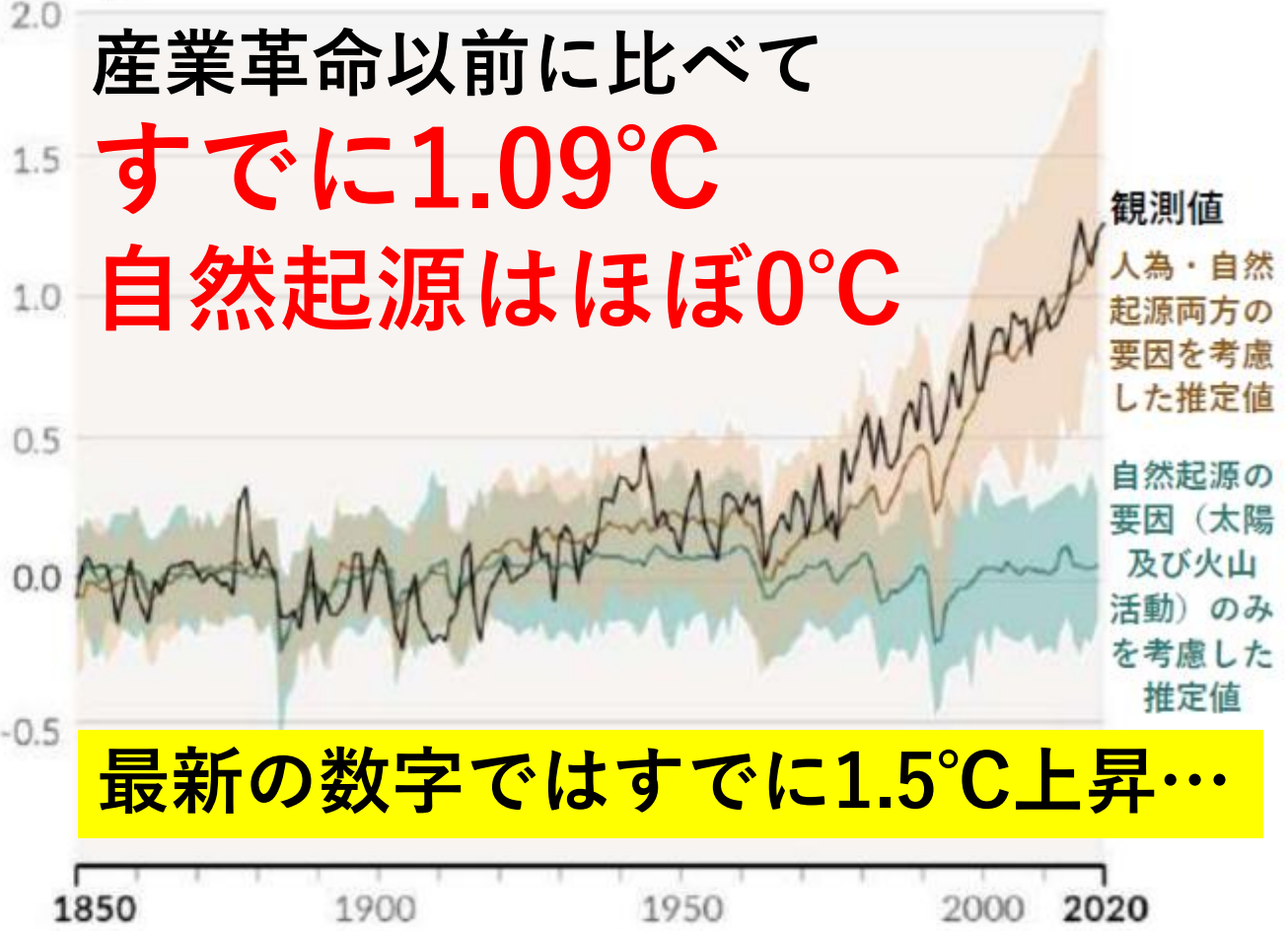
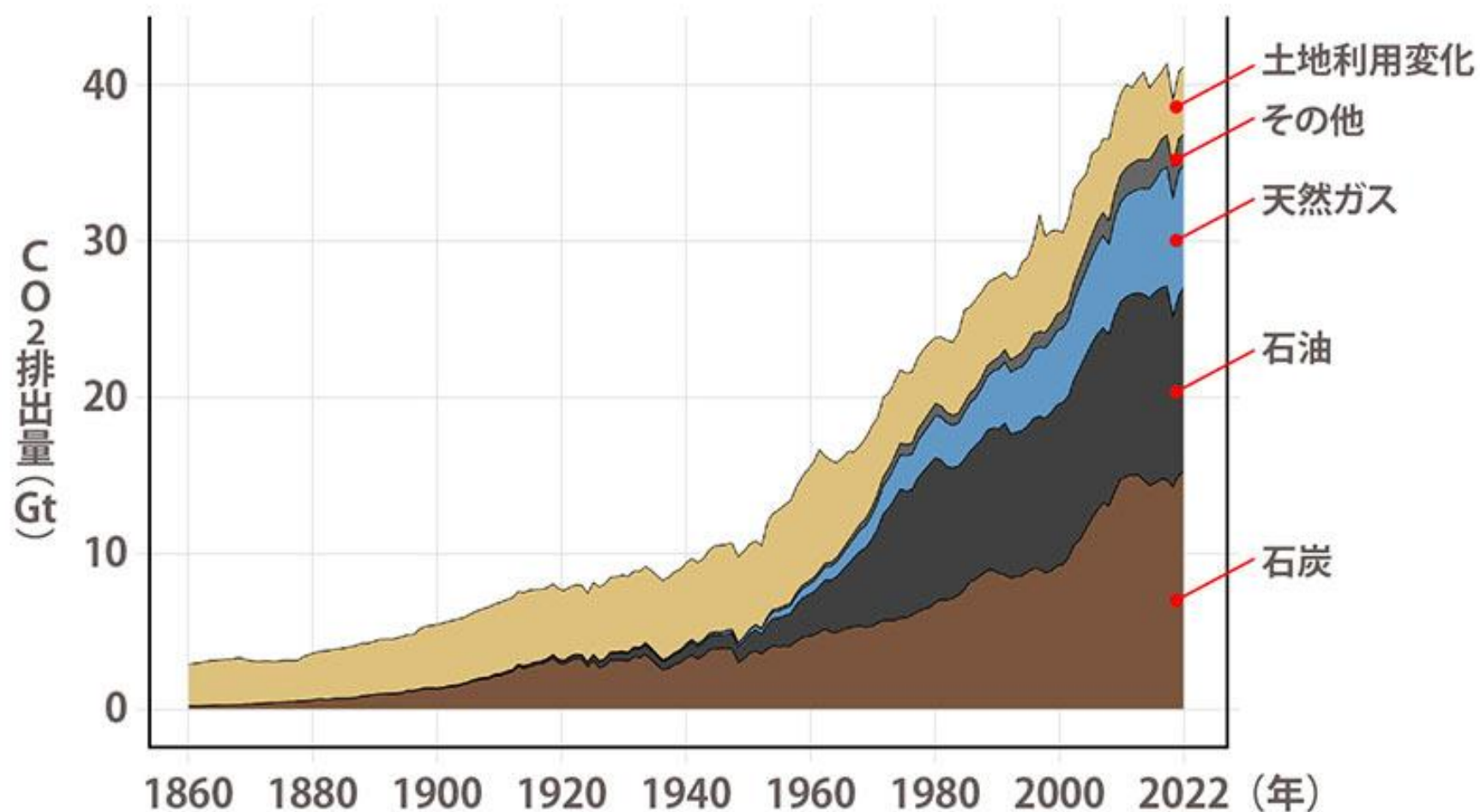


図 SPM.1： 世界の気温変化の歴史と近年の昇温の原因

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第 6 次評価報告書 第 1 作業部会報告書（自然科学的根拠） 政策決定者向け要約（SPM）の概要より

# 世界のCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)総排出量の推移



※出典／GLOBAL CARBON BUDGET 2023

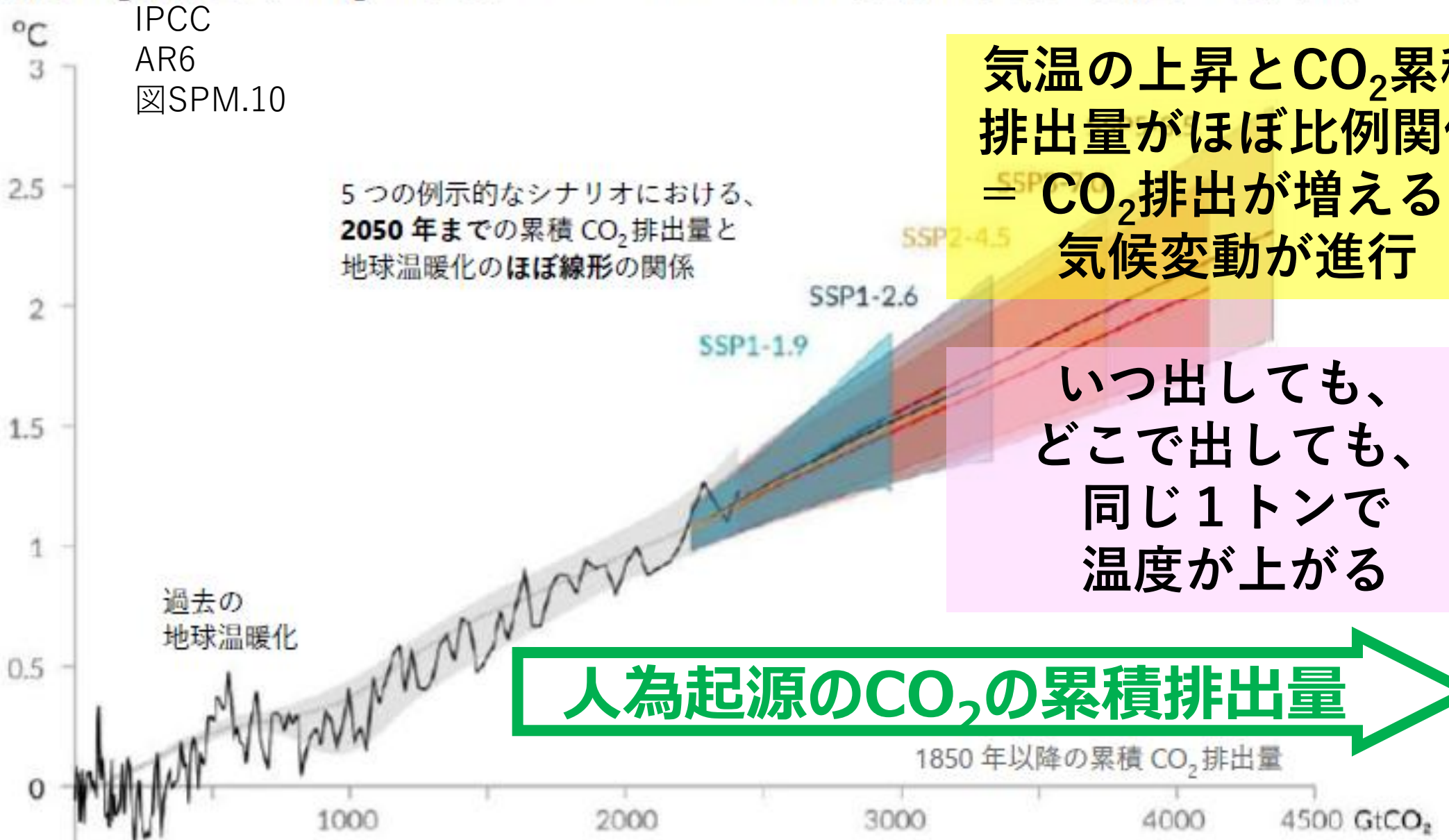
WN ウェザーニュース

ウェザーニュース「地球温暖化のウソ？ ホント？ (8) “産業革命以降”CO<sub>2</sub>が大量に増えたって本当？」 (2024年6月22日)

<https://weathernews.jp/news/202406/180235/images/?n=002>

## CO<sub>2</sub> 排出が増えるたびに地球温暖化が進行

累積 CO<sub>2</sub> 排出量 (GtCO<sub>2</sub>) の関数としての 1850～1900 年以降の世界平均気温の上昇 (°C)



気温の上昇とCO<sub>2</sub>累積  
排出量がほぼ比例関係  
= CO<sub>2</sub>排出が増えると  
気候変動が進行

いつ出しても、  
どこで出しても、  
同じ1トンで  
温度が上がる

人為起源のCO<sub>2</sub>の累積排出量

# ネパール・ラスワ郡の大規模鉄砲水

2026年8月26日発生 — 多数の死者・行方不明者、インフラに甚大な被害



## どこで起きたか



## 何が起きたか (推定されるメカニズム)



## 被害の状況 (ネパール政府発表に基づくICIMODの公表：2026年10月13日時点)

### 死亡者数

少なくとも

1,451人

### 行方不明者数

少なくとも

5,745人

### 主な影響

- 集落の広範囲な被害
- 橋（19本以上）や道路（約40km）が損壊・流失
- 水力発電所（十数か所）が損壊・機能停止
- 通信・電力網にも広範囲で影響

## 最新の科学的分析 (ICIMOD：2026年10月13日)

ICIMOD

- 今回の事象は、氷河湖決壊（GLOF）ではなく、**岩石・氷の大規模崩落（rock-ice avalanche）**が、土石流・鉄砲水に連鎖したものと判断。
- 発生源はランタン・リルン山付近とみられる。
- 発生の詳細なメカニズムは引き続き研究中。

## ニュース報道（初期報道）

2026年8月27日のウェザーニュースでは、氷河湖決壊が起因かとの速報が報じられた。

### 現在の理解

その後の科学的分析により、氷河湖決壊ではなく、**岩石・氷の大規模崩落**による土石流・鉄砲水と判断されている。



## 留意事項

- 発生の詳細なメカニズムは引き続き研究中です。
- 気候変動が今回の個別の崩落を直接引き起こしたと断定することはできません。

出典（参考）

- ウェザーニュース（2026年8月27日）「ネパール鉄砲水 多数の死者・行方不明者 氷河湖決壊が起因か」  
<https://weathernews.jp/news/202608/270261/>
- ICIMOD（2026年10月13日）Second major Himalayan flood in seven weeks raises new questions about mountain risk  
<https://www.icimod.org/press-releases/second-major-himalayan-flood-in-seven-weeks-raises-new-questions-about-mountain-risk/>
- ネパール国家災害リスク削減管理局（NDRRMA）に基づくICIMODの公表資料（2026年10月13日）

|                   |               |
|-------------------|---------------|
| ネパール人の一人当たりCO2排出量 | 0.53トン（2022年） |
| 日本人の一人当たりCO2排出量   | 8.26トン（2022年） |

ネパール人は日本人の  
16分の1しか  
CO2を出していないのに、  
甚大な気候変動の影響を受けた

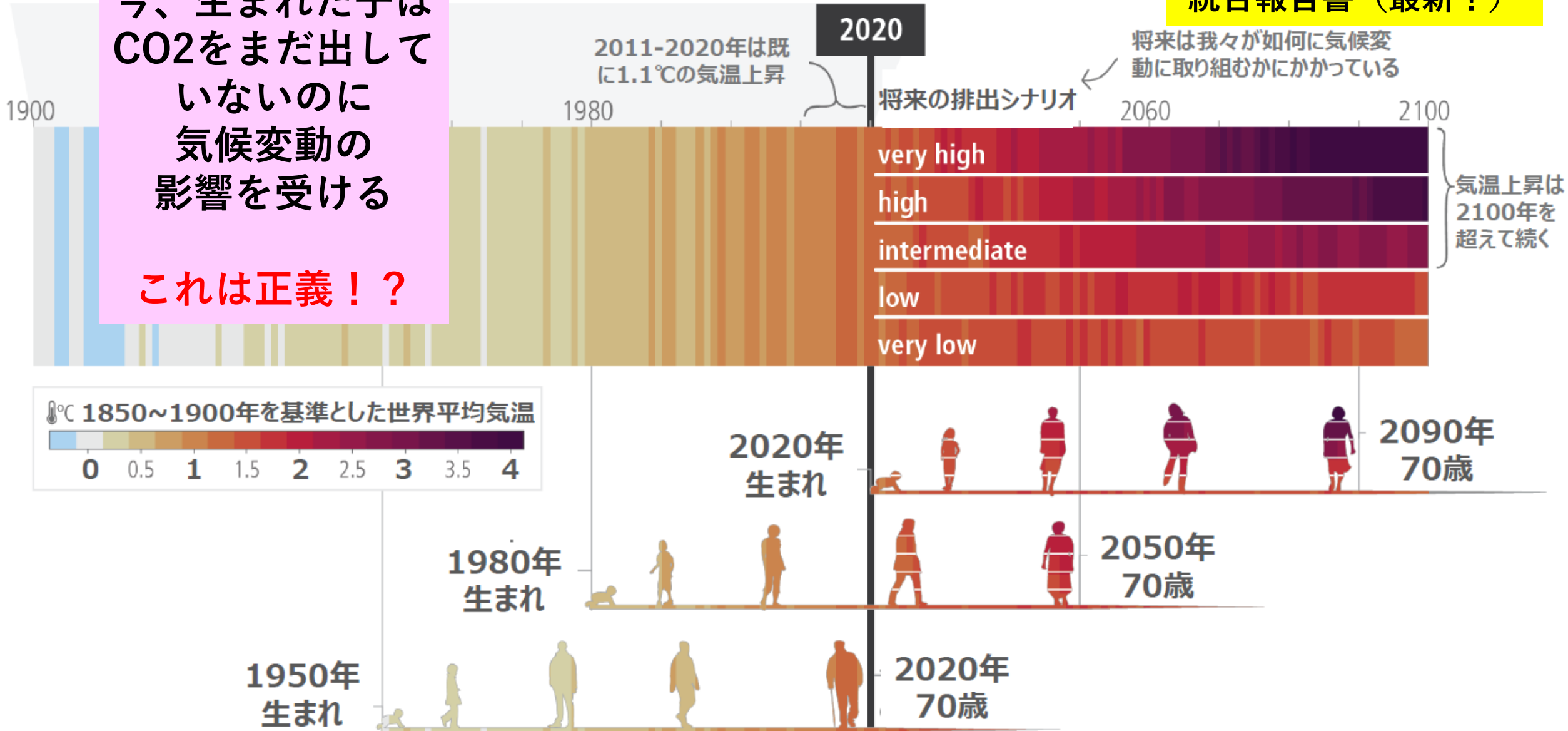
これは正義！？

# 気温上昇とそれを経験する各世代の年齢

2023年3月  
IPCC第6次評価報告書  
統合報告書（最新！）

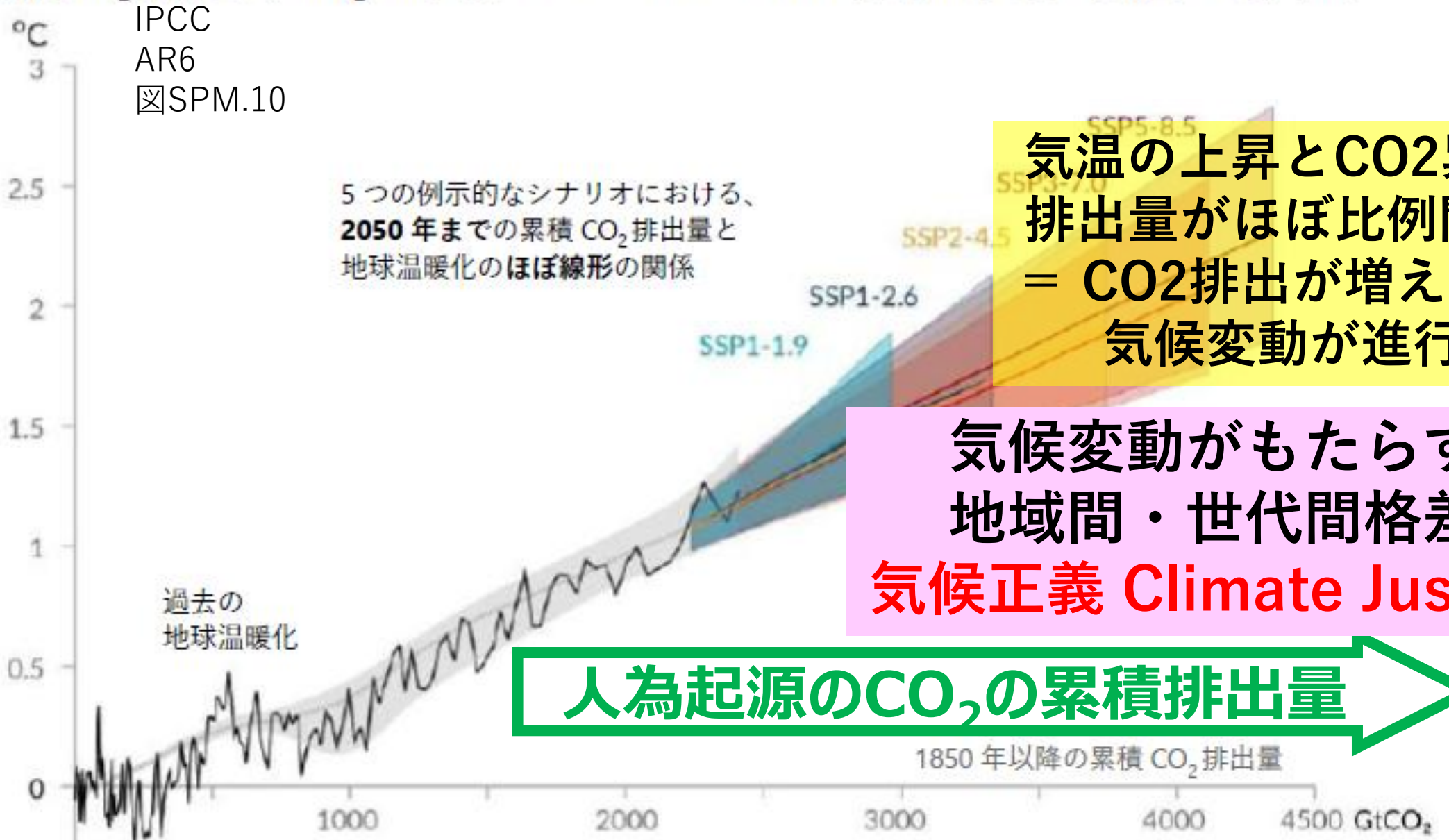
今、生まれた子は  
CO2をまだ出して  
いないのに  
気候変動の  
影響を受ける

これは正義！？



## CO<sub>2</sub> 排出が増えるたびに地球温暖化が進行

累積 CO<sub>2</sub> 排出量 (GtCO<sub>2</sub>) の関数としての 1850~1900 年以降の世界平均気温の上昇 (°C)



気温の上昇

気温の上昇とCO<sub>2</sub>累積  
排出量がほぼ比例関係  
= CO<sub>2</sub>排出が増えると  
気候変動が進行

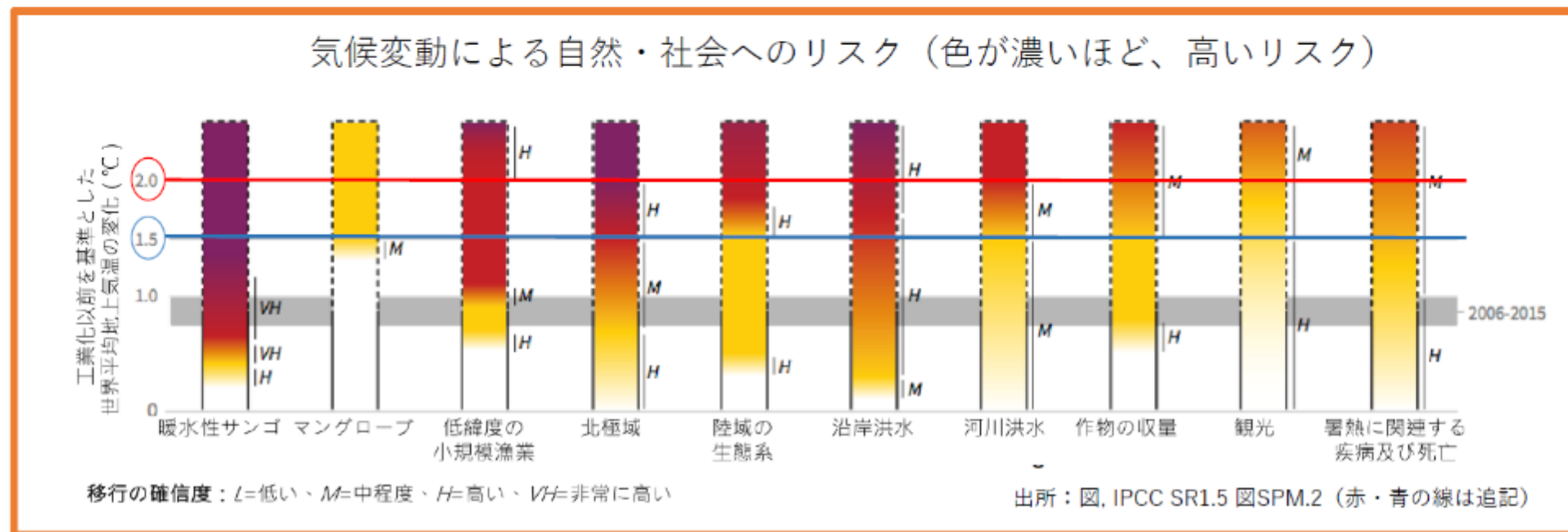
気候変動がもたらす  
地域間・世代間格差  
気候正義 Climate Justice

人為起源のCO<sub>2</sub>の累積排出量

# 1.5°C上昇と2°C上昇がもたらす悪影響の違いは？

➡ **相当程度の違い**（IPCC 1.5°C特別報告書）

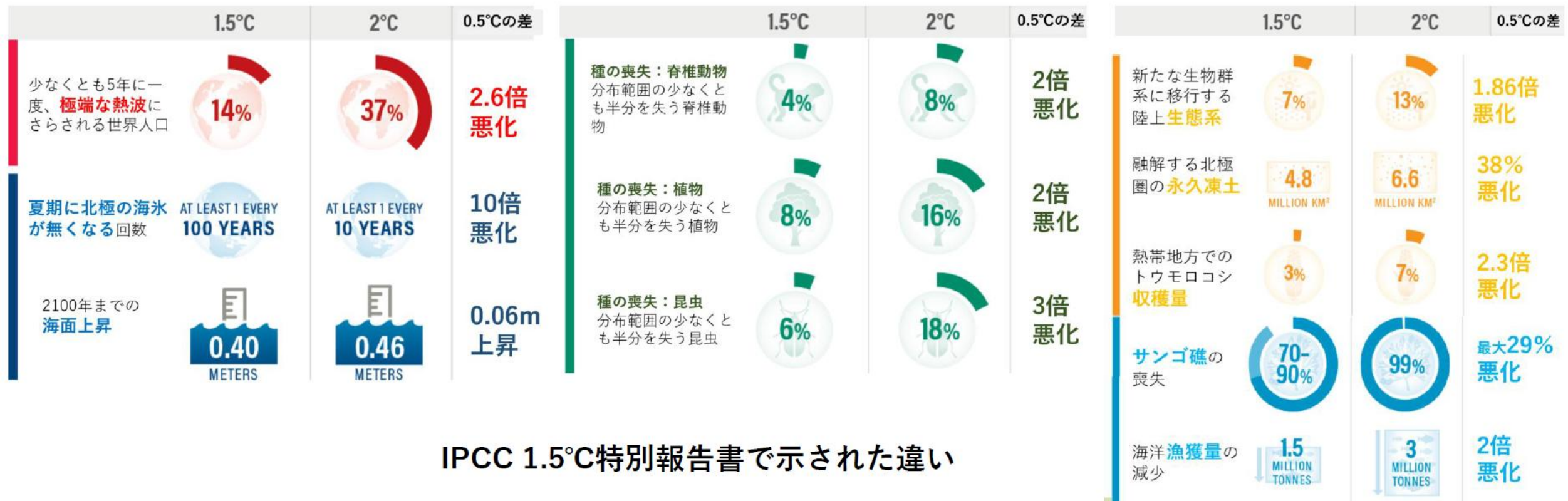
- ◆ 世界の平均気温は産業化以前と比べて、**既に約 1°C上昇**。
- ◆ 気温上昇を**1.5°Cに抑えた場合には、2°Cの場合と比較して2050年までに気候関連のリスクや貧困の影響を受けやすい人々の数は数億人少なくなる**。



## 1.5°C上昇と2°C上昇がもたらす悪影響の違いは？



## 明確な違い (IPCC 1.5°C特別報告書、2018年)



IPCC 1.5°C特別報告書で示された違い

出典：World Resources Institute 2018

2025年7月出版

# 異常気象の 未来予測

立花義裕 三重大学 大学院  
生物資源学研究科 教授



《異常気象が普通になる世界》

- ・日本は四季の国から「二季の国」になる
- ・人智を越えた新たな豪雨災害
- ・予測不可能な台風の進路
- ・夏の気温は40度が当たり前
- ・冷夏は来ない
- ・日本の夏は猛暑と豪雨
- ・災害で物流が止まる

立花 義裕

【所属】

大学院生物資源学研究科 共生環境学専攻 教授

【略歴】

北海道道大学 大学院理学研究科・地球物理学専攻 博士後期課程 修了。博士（理学）。

その後、北海道大学低温科学研究所・ワシントン大学・海洋研究開発機構等を経て、2008年より現職。

【専門】

気象学・気候力学・大気科学・地球環境

世界全体では  
2°C（パリ協定）  
から1.5°Cへ

↓  
2°Cは2100年ゼロ  
1.5°Cは2050年ゼロ

↓  
2050年以降  
しばらくマイナス！

COP26@グラスゴー  
2021年11月

Global total net CO<sub>2</sub> emissions

Billion tonnes of CO<sub>2</sub>/yr

